

産業技術総合研究所九州センターの概要紹介

独立行政法人産業技術総合研究所九州センターは、佐賀県鳥栖市を拠点とし、福岡県福岡市にも連携拠点（福岡サイト）を置いています。九州センターは、九州地域におけるオール産総研の窓口として、「研究拠点」と「連携拠点」の二つの機能により地域の産業活性化に貢献することを目指しています。

「研究拠点」としては、半導体・自動車・食品加工など地域の基幹産業の生産現場における品質・生産性の向上、安全確保などに資する新たな計測ソリューション提供を目指す「生産計測技術研究センター」を設置し、地域貢献のための研究開発に取り組んでおります。

「連携拠点」としては、太陽光発電工学研究センターの「太陽電池モジュール信頼性評価連携研究体」を設置し、民間企業と共に、太陽電池モジュールの試作研究や太陽電池の長期信頼性試験、モジュール劣化要因の解明等の研究を実施しています。また、九州産学官連携センターは、九州の産業界、公的機関と連携して、積極的な産学官連携活動を展開しています。「計測・診断システム研究協議会」は、九州のものづくり企業等の技術ニーズを抽出し、その解決を図っています。また、九州・沖縄各県の公設試との広域連携による産業技術連携推進会議の活動を積極的に推進しています。これらの活動や各種講演会・交流会開催などの取り組みを通じて、オール産総研として九州地域の産業に貢献してまいります。

産総研 九州センター

日本最大級の公的研究機関 独立行政法人 産業技術総合研究所九州センター

「産業技術の向上を通じた社会の発展への寄与」の基本理念のもと、九州地域におけるオール産総研の窓口として、二つの機能により地域の産業活性化に貢献することを目指します。

「研究拠点」

生産計測技術研究センター

当研究センターは、計測技術を核とする研究成果を統合し、産業の生産現場や社会で発生する、様々な課題にオンタイムでソリューションを提供していくことを目指しています。

- 生産現場計測技術の開発
- 測定が困難な条件に適用可能な力学計測技術の開発
- 微量・迅速・精密化学計測技術の開発



「連携拠点」

太陽電池モジュール信頼性評価連携研究体

太陽電池モジュール信頼性評価連携研究体は、太陽光発電研究センターに属する組織で平成22年10月1日に発足しました。この連携研究体では、新規部材を用いた太陽電池モジュールの試作・評価に関する研究と、屋外での太陽電池モジュールの発電量評価・長期信頼性評価の研究を行なっています。



「産総研コンソーシアム」

計測・診断システム研究協議会

当協議会は、様々な産業の基盤となる生産現場での計測・診断技術に関する現状分析や将来展望を議論するとともに、技術開発を推進している企業が、それぞれの生産現場で直面している計測・診断技術等に関する課題を明らかにし、その問題解決を図ることを通じて、わが国産業の競争力強化に資することを目的としています。

